

ふるさとを大切に
する人を育てる

自然環境保全・再生活動

30年
の歩み



町では、昭和60年に国蝶である「オオムラサキ」の生息が確認されたことを契機に、オオムラサキがすめるような豊かな雑木林の保護育成にはじまり、離農跡地を活用した里山づくりなど、町民主体の環境保全・再生と教育活動が行われてきました。

現在では、父なる「御大師山」、母なる「夕張川」、人と自然の身近な接点となる「ハサンベツ里山」、そして廃校となった雨煙別小学校を再生した「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」を中心に「人と自然の共生」を目指す自然・体験学習、農村環境やまちづくりなどを含めた環境教育が展開されるなど、「ふるさと栗山」づくりが進められています。

今月は、道内外に誇れる自然環境保全・再生活動にスポットを当て、30年の歩みを振り返ります。

栗山町のランドマーク
国蝶オオムラサキ

昭和60年夏、御大師山の雑木林で「オオムラサキ」が1頭、生息確認されました。

環境省が環境を指標する際、指定種にしているなど、オオムラサキの生息する地域は多様な生物が暮らす生態系の豊かな地域といえます。

本町では、オオムラサキが絶滅せず世代交代していける森づくりを目指して、エゾエノキ里親制度や雑木林の整備など「栗山オオムラサキの会」を中心に次の世代へオオムラサキを継承する取り組みを行い、平成

19年6月25日には、天皇后両陛下が視察されました。

御大師山に続く後背地の雑木林は、町による自然財産としての土地購入や町民からの寄贈などにより約130畝となり、「オオムラサキのすめる雑木林」の保全・拡大がなされてきています。

人と自然が共生する
里山づくり

かつて、周りが雑木林に囲まれ、水田のあったハサンベツ地区を、自然と農業と人が共生する里山、ふるさとの川として再生していくことを目指して、ハサンベツ里山計画実

行委員会を中心に、住民主体の環境保全活動が進められています。

また、環境省が日本列島の多様な生態系を調査するため全国に1000カ所の継続監視地域を設置し、長期にわたって自然の移り変わりを見極めていく「モニタリングサイト1000」事業に全国7カ所の里山調査の中核地の一つとして選ばれ、日本全国に生態系の情報を発信しています。

自然体験・環境教育の
活動拠点

歴史的建造物として旧増毛小学校と並ぶ道内最古の2階建て木造校舎

の一つで、文化財にも匹敵する貴重な建物である雨煙別小学校。

平成20年、述べ1500人の町民により、外壁の塗装や校舎内部、体育館の整備など、知恵や創意工夫、思いを結集して、自然・環境教育、文化・スポーツの体験学習のための宿泊施設「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」として再生しました。今や自然体験活動や環境教育の拠点として町内外から利用者が集まる施設となっています。

サケが帰る
ふるさとの川づくり

これまで、栗沢頭首工がサケ遡上の障壁となっていました。今年3月に魚道「サーモンロード」が完成し、72年ぶりに遡上したサケの姿が確認されました。

平成20年からサケの稚魚を放流するほか、サケが遡上し自然産卵できる川を取り戻すための夕張川支流の雨煙別川の清掃をはじめ、子どもたちに「郷土愛」を持ち続けてもらうため、放流するサケの稚魚を卵から育ててもらう「サケの里親事業」や川の学習などを行ってきた成果です。これからもサケの産卵環境の整備をはじめ落差工への魚道設置など「ふるさとの川」づくりが検討されています。



ハサンベツ地区

栗山自動車学校の北側に位置する、昔アイヌ語で「ハチャム・ベツ（桜鳥・川）」（北海道蝦夷語地名解）と言われた細長い地区

平成13年、20年計画の実行委員会が立ち上がり「童謡の唱が聴こえる里山づくり」をコンセプトにして活動が行われてきました。活動も15年目を迎え、ハサンベツ里山にはたくさんのホタルやトンボ、水生生物が復元し、穏やかな景観が整い、体験学習などで訪れる子どもたちは年間3000人を超えるようになってきました。ハサンベツ里山20年計画は、次代を担う子どもたちに「身近に触れ合える自然の姿を残すため」という熱い思いが始まりで、「できることからやらう！」「知恵・労力・資材・資金を生み出し持ち寄ろう！」という自由度の高い活動を基本に、まさに町民皆さんの手で里山づくりが進められてきています。

その活動は、道内外から認められ農林水産大臣賞や北海道新聞社「北のみらい賞」などを受賞。北海道内6カ所の一つに認定された「道州制モデル事業」では、ハサンベツ川の一部の自然河川への切り替えや3面コンクリート護岸の改修などが計画的に行われ、子どもたちが集う自然環境フィールドとして定着してきて

います。毎月第2日曜日の「ハサンベツの日」では、多くの町民の皆さんがボランティアで活動に参加しています。11月8日のハサンベツの日では、平成24年の大雨で崩れたハサンベツ川支流の通称「火薬庫の沢」の再生事業が行われ、町民だけではなく札幌などからの参加があり、将来を見据えた取り組みも行われました。

ハサンベツ里山は、本町が進める「ふるさと教育」そして、環境教育の拠点となりました。

これからも、官民一体となった「ふるさと自然やふるさとをの川を守り育てる」活動を続けていくことが大切です。



「夕張川にサケを戻そう！」活動

平成16年から栗山青年会議所などを中心に栗山にサケを呼び戻す活動を展開。毎年サケの稚魚放流を実施

ハサンベツ里山

オオムラサキ

日本の国蝶。北海道のオオムラサキの生息地は、石狩市浜益と栗山町を結ぶ線を北限とし、石狩低地帯の限られた山林に散在。本町は生息地の北東限



国蝶オオムラサキ

昭和60年の生息確認以来、町全体でオオムラサキの森を守り育てていくという思いでさまざまな取り組みが行われてきました。特に、「栗山オオムラサキの会」は来年で発足30年を迎えますが、この間「オオムラサキの森づくり」「心に木を植える運動」人と自然が仲良く暮らしていくための小講演会としてのふれあいトーク「オオムラサキ通信の発行」を活動の三本柱に、環境庁（現環境省）「ふるさといきものふれあいの里」指定や栗山町いきもの里づくり推進協議会発足の先導的役割を果たすなど、積極的に自然保護活動を続けています。

また、環境庁（現環境省）の支援を受けたファープルの森観察飼育舎やふれあいプラザの完成により、子どもたちが身近に生息する生きものの暮らしを目の前で観察できるようなりました。

今年、角田小学校1年



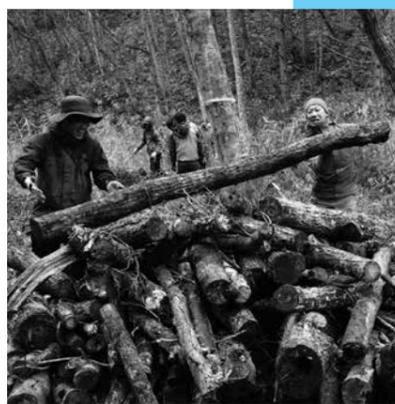
生と継立小学校2年生が、ファープルの森観察飼育舎からオオムラサキの幼虫とエゾエノキの苗木を借り受け、飼育に挑戦。成長する姿を観察日記につけ、餌となるエゾエノキに水やりを行うなど、みんなで協力して世話をしました。

飼育していた幼虫が美しいオオムラサキに羽化した姿を見た子どもたちは「羽がきれい。頑張ってお世話をしてよかった」と喜び、その笑顔はとても素敵でした。

7月には、栗山小学校3年生のネイチャーハイイクで、ハサンベツ里山に植樹したエゾエノキから羽化したたくさんのオオムラサキの姿を見ることができました。

オオムラサキの生息地は、町内では御大師山と滝下地区の2つです。御大師山からハサンベツ里山では、エゾエノキの数を増やしています。滝下地区のエゾエノキは台風の影響などで減少しています。

本町のランドマークであるオオムラサキを守り育てていくためには、将来を見据えた取り組みが必要であり、今後も地域ぐるみの活動を進めていかなければなりません。



雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス

98年の輝かしい歴史と伝統を歩み続けた雨煙別小学校は今、「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」して再生され、町内外の人に利用されています。今年これまで、町内の小学生が親元を離れて学校に通う「通学合宿」や原発事故の影響で屋外活動を制限されている子どもたちの笑顔と元気を応援する「ふくしまキッズ栗山サマーキャンプ」などが行われています。

雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスは、栗山にある自然の素材や農業・歴史文化を活かした教育の拠点として、これからもたくさんの子どもの笑顔を作り出していきましょう。



雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス

平成10年に閉校した「雨煙別小学校」を再生した自然・環境教育などの研修活動拠点となる宿泊施設

夕張川自然再生の取り組み

サケの里親を募集します

サケの卵から稚魚までの成長を感じ、自宅で育てた稚魚を夕張川に放流、その稚魚が4年後、立派に成長した姿で夕張川に帰ってくる。そんな、体験を試してみませんか。

- 飼育期間 12月下旬～平成28年4月上旬
- 申込期限 12月15日(火)まで
- 申込方法 電話で受付します。
- 申込先・問い合わせ 町ふれあいプラザ内 夕張川自然再生協議会 ☎②3000



1 湯地町教育委員長が教育委員会表彰の賞状を贈呈
2 前田一步園賞表彰式後の集合写真

注がれました。そして、これまでの活動が道内

また、町民があらためてふるさと栗山の良さを認識し、誇りをもってまちづくりにあたるようになっていくことや「子どもたちの五感総動員でふるさと栗山の良さを満喫できること」というふるさと教育へ情熱を注がれました。

北海道農村活性化検討会議委員や北海道内外の大学が雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスで演習する際の講師など、町外や北海道に

今回の受賞を受け高橋さんは、「受賞は自分だけのものではなく、たくさんの方々の先輩や仲間たちのもの」「名誉ある賞をいただいたのは町民の皆さんとともに頑張った結果」「町民の皆さんとともに続けてきた活動が認められて大変うれしい」「これらの賞は町民の皆さんにいただいたご褒美だと思っ

「教育委員会表彰」は、ふるさと教育への情熱をたたえての受賞。「第33回前田一步園賞」は、30年間の自然環境保全活動が評価されていると認められました。さらに、「第46回博報賞・教育活性化部門」は、息の長い多様な活動を実践し、魅力ある教育プログラムを開発するなど、町民活動のリーダーとして関係諸団体と連携しつつ、「ふるさと教育」に多大な貢献をされていることが高く評価されました。

外から高く評価され、「教育委員会表彰」「第33回前田一步園賞」「第46回博報賞・教育活性化部門」を受賞しました。「教育委員会表彰」は、ふるさと教育への情熱をたたえての受賞。「第33回前田一步園賞」は、30年間の自然環境保全活動が評価されていると認められました。さらに、「第46回博報賞・教育活性化部門」は、息の長い多様な活動を実践し、魅力ある教育プログラムを開発するなど、町民活動のリーダーとして関係諸団体と連携しつつ、「ふるさと教育」に多大な貢献をされていることが高く評価されました。



められたのだと常に口にしています。高橋さんの活動は、理解ある多くの町民の連携と協働を生み出し、栗山らしさを創り出す原動力になっています。まさに、まちづくりの合言葉「ふるさととは栗山です。」を体現しています。

高橋さんに受賞後、話を聞きました。高橋さんに「ふるさと教育は、子どもへの教育だけではなく、私たち大人がしっかり生きて、いきいきと暮らす必要性を意味します。これからも町民の皆さんとともに頑張ってください」と語ってくれました。高橋さんはこれからも、「ふるさと



と愛、連携協働、実践行動の開拓者精神」で次代を担うことも私たちのため、そして、ふるさと栗山のために、活動を続けていってくださるに違いないと語りました。



高橋 慎 (たかはし まこと) ▶ NPO法人雨煙別小学校理事、ハサンベツ里山計画実行委員会事務局長などを務める。昭和25年1月21日生まれ。松風4丁目在住

長年にわたる自然環境保全・再生活動 道内外に誇れる「ふるさと栗山」に！

先頭に立って町民活動をけん引してきた、高橋慎さん

昭和60年に始まる30年の自然環境保全・再生活動。その活動をけん引してきた高橋慎さんが、町民のふるさと意識を高揚し、教育にあつては、子どもたちの人間力を高め続けていることが認められ、「教育委員会表彰」「前田一步園賞」「博報賞」を受賞しました。長きにわたり先頭に立って活動してきた高橋さんの軌跡をたどります。

変わらぬ情熱で まちづくりに貢献

今年、高橋慎さんが自然環境保全・再生に関する町民活動をけん引し始めて30年の節目の年です。

高橋さんは30年間、変わらぬ情熱で栗山の子どものための人間性豊かな成長・発達、そしてまちづくりに多大な貢献をされてきました。その活動は、幅広く多岐にわたっています。

- 1 国蝶オムラサキの生息確認やエゾノキの里山制度化など、自然環境保全・再生町民活動の先駆け
- 2 「童謡の唱が聴こえる里山づくり」の実現など、ハサンベツ里山20年計画活動の実践
- 3 町民ボランティアによる再生手法

や自然体験教育の充実など、雨煙別小学校保存・再生活動

- 4 サケ稚魚・サクラマス幼魚の放流や魚道設置に向けた町民運動など、夕張川とその流域の再生活動
- 5 「栗山オムラサキの会」など、自然環境活動関係諸団体の結集に関する活動
- 6 自然体験など教育プログラムの指導をはじめとする、子どもたちの前に立つ指導者としての活動
- 7 ふるさと教育交流会やふるさと教育実践研究会への貢献など、地域教育協議会コーディネーターとしての活動
- 8 総合計画審議委員や自治基本条例をつくる会代表など、まちづくりに関する活動



椿原紀昭町長に受賞の報告

栄誉をたたえて

町政功労者表彰



ふるさと栗山の発展に尽力

まちの発展に尽くされた方の功績をたたえる平成27年度町政功労者表彰式が11月2日、ホテルパラダイスヒルズで行われました。

本年度の受賞者は、鳴海登さん（78歳）、岩崎俊英さん（81歳）の2人です。榎原紀昭町長が表彰状をそれぞれ手渡し、長年にわたる町への貢献に感謝しました。

表彰者を代表して岩崎さんは「お世話になった皆さんの方たちのおかげです。今後も栗山のまちづくりのために尽くしていきたい」とあいさつしました。



治安功労者表彰
岩崎 俊英さん

平成7年より栗山町交通安全協会副会長として、20年余の長きにわたり協会を統率。交通安全の啓発と意識高揚に尽力され、地域の交通事故防止に貢献されています。



自治功労者表彰
鳴海 登さん

平成11年より9区町内会長として、15年の長きにわたり会員相互の親睦融和に尽力され、行事などを率先して推進し、笑顔あふれる町内会づくりに寄与。地域の発展に貢献されました。

交通功労者表彰

長年の交通安全指導に敬意を表して

栗山地区交通安全協会（廣岡清治会長）の本年度の「交通功労者・優良運転者等表彰式」が10月23日、カルチャープラザ「Eki」で行われました。



富澤勇さん

栗山町からは、長嶋忠男さん（73歳）と富澤勇さん（69歳）が北海道警察本部・北海道交通安全協会長連名表彰を受けました。

2人は昭和60年から町交通安全指導員として、街頭指導などを行い、啓発活動に尽力。現在も後輩指導員への経験の伝達に力を注ぎ、地域の交通安全に貢献されています。



長嶋忠男さん

社会福祉貢献者表彰

社会福祉、障がい者福祉の向上に寄与

地域福祉活動に貢献されてきた方などを表彰する「平成27年度社会福祉貢献者表彰式」が11月8日、カルチャープラザ「Eki」で行われました。



町社会福祉協議会の橋一也会長から社会福祉および障がい者福祉に寄与された13人の方に表彰状を、また、4人の方に感謝状が授与されました。

【社会福祉功労表彰】

- 今井 實さん
- 吉本 信昭さん
- 畠山 和久さん
- 渡部 晃一さん
- 柴田 隆雄さん
- 飯尾 憲男さん
- 佐藤 照男さん
- 井口 実さん
- 岡山 彰さん
- 山崎 守泰さん
- 宮川 規夫さん
- 菅原 和子さん

【障がい者福祉表彰】

- 島畑 美絵さん

【感謝状】

- 久保 廣記さん
- 丸山 忠信さん
- 吉田 礼子さん
- 谷口 温松さん

火災予防絵画 優秀作品

消防車の力強さのびと描く

南空知消防組合が主催した「火災予防絵画コンクール」において、栗山小学校1年の旗陽菜里さん、角田小学校1年の石森心晴さんの作品が、それぞれ優秀賞に選ばれました。



旗陽菜里さん



石森心晴さん